

7. 河川空間の利用状況

7-1 河川の利用状況

嘉瀬川は、佐賀県都である佐賀市を流下していることも合間って、地域住民の憩いの空間として利用され、嘉瀬川の河川敷や派川である多布施川は多くの人々に利用されている。

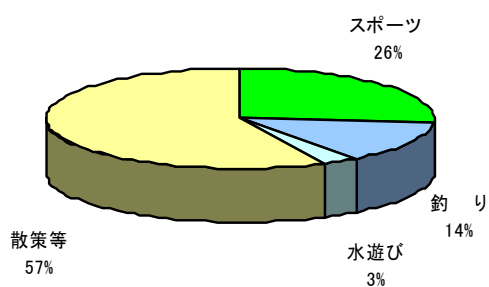


図 7-1-1 嘉瀬川河川利用目的

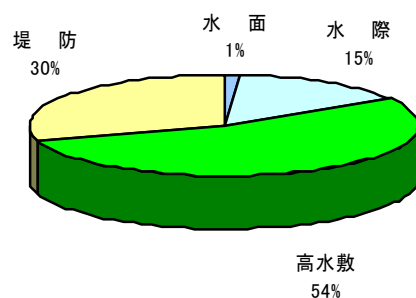


図 7-1-2 嘉瀬川河川利用場所
出典：平成 15 年度河川水辺の国勢調査



写真 7-1-1 嘉瀬川国際
バルーンフェスタ

嘉瀬川の秋の風物詩である佐賀国際バルーンフェスタは国内外から約 100 万人の人々が訪れる



写真 7-1-2 嘉瀬川リバーサイト
ゴルフ場

嘉瀬川の河川敷に位置するゴルフ場で休日ともなれば多くの人々が訪れる



写真 7-1-3 多布施川散策路

佐賀市街部を流下し、堤防沿いには多くの桜が植えられており、4 月の花見シーズンには多くの人々が訪れる

嘉瀬川における河川の利用状況について、上流部において内水面漁業が設定されている区間に毎年ヤマメの放流が行われている。解禁日ともなると多くの釣り客が「ヤマメ釣り」を楽しんでいる。

下流部において九州の嵐山と称されている川上峡で川上頭首工の湛水面で幻想的な「灯笼流し」を毎年8月に行われている。

また、嘉瀬川大堰の湛水面を利用し、「鑑真和上遣唐使船レース」等の河川利用がなされている。



図 7-1-3 嘉瀬川の河川利用状況

7-2 河川敷の利用状況

(1) 河川の利用概要

嘉瀬川における河川の利用状況は、年間でおおよそ 15 万人程度であり、(平成 15 年度調査)沿川市町村人口からみた1人当たりの年間利用回数は、約 0.7 回となっている。

利用形態別では、散策等が 57%と最も多く、次いでスポーツの 26%と続き、両者で 83%を占め、釣りは 14%、水遊びは 3%である。

■嘉瀬川での河川利用形態・利用場所

区分	項目	年間推計値(千人)		利用状況の割合	
		平成13年度	平成15年度	平成13年度	平成15年度
利用形態	スポーツ	67	40	散策等(40%)	スポーツ(47%)
	釣り	15	21	散策等(57%)	スポーツ(26%)
利用場所	水遊び	4	5	水遊び(3%)	釣り(10%)
	散策等	57	88	堤防(5%)	水面(2%)
別合計		142	153	高水敷(2%)	水際(11%)
利用場所	水面	3	2	高水敷(54%)	水際(15%)
	水際	15	23	高水敷(72%)	水際(11%)
利用場所	高水敷	102	82	高水敷(54%)	水際(15%)
	堤防	22	45	高水敷(64%)	水際(15%)
別合計		142	153		

出典：平成 15 年度河川水辺の国勢調査

利用場所別には、高水敷が 54%と最も多く次いで堤防の 30%と水際の 15%となっており、全体の 99%を占め、水面は 1%である。

(2) 河川敷の利用

嘉瀬川の特徴として広い高水敷が上げられる。

この高水敷を利用して、「嘉瀬川リバーサイドゴルフ場」、「グラウンド(野球・サッカー)」、「佐賀インターナショナルバルーンフェスタ」等に利用されるほか石井樋から多布施川については公園整備・遊歩道の整備がなされ多くの市民が利用している。

表 7-2-1 嘉瀬川の河川敷利用状況

河川名	距離標	左右岸	施設名	種類	施設面積(m ²)	管理者名
嘉瀬川	12.0~13.7	左右岸	嘉瀬川リバーサイドゴルフ場	ゴルフ場	210,047	(財)嘉瀬川水辺環境整備センター
	6.1~9.6	左岸	嘉瀬川緑地運動公園	運動場	203,242	佐賀市
	15.8~16.0	右岸	河川敷公園	公園	2,519	※1 大和町
	13.7~13.8	左岸	多目的自由広場	公園	9,411	佐賀市
	3.9~5.1	左岸	佐賀環状自転車道	自歩道	47,789	佐賀県
	3.2~3.9	左岸	一般県道佐賀環状自転車道	自道	24,751	佐賀県
	6.3~11.3	左岸	神埼 大和 佐賀 自転車道	自歩道	161,891	佐賀県
	11.3~14.5	左岸	自転車歩行者専用道	自歩道	59,684	佐賀県
	12.3~13.2	左岸	自転車歩行者道 神埼・大和・佐賀線	自歩道	38,527	佐賀県
	16.5	右岸	観光遊園施設	係留場(ボート)	3.44	大和町 ※1
	13.4~13.7	左岸	嘉瀬川リバーサイドゴルフ場	休息施設	4,993	(財)嘉瀬川水辺環境整備センター

※1：現在、佐賀市(平成 17 年 10 月 1 日、佐賀市・諾富町・富士町・三瀬村と合併)



図 7-2-1 嘉瀬川の河川敷利用状況